

ITと優しさを武器に介護業界の働き方を変革するチャレンジャー。
直方のまちなかから動き出すIT最前線に迫る。

市民に地場産業を知ってもらおうと、北九州市立大学の学生が市内事業者取材しました。
今回は、古町にあるアブストラクト合同会社を紹介します。



施設入居者のあざ等の傷の記録画面
(3Dモデルで、詳細に記録することが可能)



ミーティング中の吉岡さんと中村さん



QRコードを読み取ることで
瞬時に記録画面に移動する

介護記録ソフト「Notice!」による入力作業を体験するインタビューアー

アブストラクトの歩み

平成27年 3月 アブストラクト合同会社を設立
4月 介護記録システム「Notice!」を販売
令和元年 10月 国際福祉機器展に「Notice!」を展示



代表社員

よしおか ゆう
吉岡 由宇さん

トップインタビュー

Q1

起業の経緯と事業内容を
教えてください。

主に介護施設向けの記録システムの開発、販売をしています。介護以外では、保育、障がい者支援、福祉分野等のシステム開発・販売も行っています。

私は元々、大阪大学で研究職をしていましたが、結婚を機に妻の実家がある直方に移住しました。妻の実家は介護施設を営んでいて、私も介護現場で働き始めました。実際、介護の現場に入ってみて、業務の煩雑さと手作業の大変さにはがく然としました。そんな中、自分にできることはないのかと考えるように。従業員の業務を観察・分析し、負担の原因が記録業務の煩雑さと手書きの記録の煩わしさにあることに気づいたのです。そこで、大手メーカーのもので記録の電子化を試みましたが、使い勝手が悪い上に高価でした。それなら自分で作ってしまおうと考え、合同会社を起業し、システム開発に踏み込みました。そして完成したのが、日常介護記録システム「Notice!」です。



トップインタビュー

Q2

「Notice!」とは？

「Notice!」は、スマホやタブレットなどのモバイル端末を使用したアプリケーションです。QRコードやタッチバー、人体3Dモデルによる傷の記録等の直感的な操作により、その場で簡単に記録できます。最新バージョンは、音声入力にも対応しています。記録したデータは、無線LANを通じてサーバーに集積されます。そして集めたデータはグラフ等で「見える化」され、負担軽減だけではなく、ケアの質向上にもつながると考えています。

Q6 若者へのメッセージをお願いします。

この仕事を通して思うのは、AIなどを使ったスキルが必ずしも一番大切ではないということ。これらの技術は既にマニュアルがあるので、ある程度、勉強すれば習得できます。一見、このような技術がないとついていけないと思うかもしれませんが、それよりも、人柄や精神面が大事です。人の役に立てるようになるには、人との関わり方やコミュニケーションを大事にすることが重要であると考えています。

社員に直撃

社員の中村さんに、仕事への想いをお聞きました。

代表社員の吉岡さんは、大学の友人です。大学在学中にステップアップのため、他の大学で学び、薬剤師を目指しました。卒業後、薬剤師の資格を取得し、薬の効用をシステム化するIT企業に入社しました。そういった経験を積んだ中、彼と再会し、話を聞く中で、彼が取り組もうとしていることに共感し、応援したいと思うようになりました。自分自身も人のために何かしたいという思いが強くなったので、彼と一緒に仕事をする中で活躍できるのではないかと思います。彼の会社に入社しました。元々、友人同士ということもあり、意見が出しやすい環境で様々なアイデアが生まれ、介護記録システム「Notice!」が生まれました。今後も継続して、現場のニーズを汲み取り、真摯に良いものを作って行きたいと思っています。介護の現場で弊社の製品を使っていただき、最終的には国内シェア100%を目標に、より良いシステム開発に取り組んでいきます。



Q3 強みは何ですか。

コンセプトを具現化する技術力です。常に開発しているシステムが、コンセプトにのっとっているかを考え、根本的な問題を解決しています。例えば、介護記録システムの「Notice!」では「誰でも使える」というコンセプトでシステム開発を行いました。妻の実家が介護施設ということもあり、介護の根本的な課題を探ることができました。これらの課題を解決し、全員が使えるシステムを開発することが、システム活用につながり、ケアの質の向上につながると自負しています。

Q4 新規開拓しようと考えている分野はありますか。

保育の分野で、保育園の経営もしてみたいです。あとは、保育支援のアプリ開発です。具体的には、園児の成長記録を把握できるアプリを考えています。病気でのお休み状況、ご飯をどのくらい食べたかなど、基本的な記録はもちろんですが、一日一日の園児の成長を記録し、その情報を保育園と保護者の間で共有できるようなシステムを開発したいです。

Q5 近年、IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)を活用した取り組みが活発化しています。この潮流を、どのように感じていますか。

IoTやAIは言ってしまうと道具であり、コンセプトに当てはまるかが大事だと思っています。色んな技術を駆使しながらも、利用者のことを一番考えることが重要です。また、直方市は昨年、IoTを推進するための「直方市IoT推進ラボ」を立ち上げたということですので、行政による支援を期待しています。

学生レポート 取材を終えて

介護とシステム開発は一見、無縁のように感じていましたが、そうではないことを今回のインタビューで実感しました。介護記録システム「Notice!」を実際に体験し、誰でも簡単に使うことができ、また、詳細な内容を記録できるような仕組みが備わっていて、驚きました。こういったシステム開発は、従業員の負担軽減になるのはもちろんですが、ケアの質の向上に繋がるということがよく理解できました。このようなシステムが、より多くの場所で導入されることで介護従事者と被介護者両者の環境がより良いものになったらいいなと思いました。(柿原 友紀)

問い合わせ

インタビュー先の連絡先

- 事業者名…アブストラクト合同会社
- 所在地…直方市古町17-18-1210
- メールアドレス…info@abst.sakura.ne.jp



記事についての連絡先

- 問い合わせ…商工観光課 工業振興係 ●TEL…29-3155
- FAX…29-3156 ●メールアドレス…n-kogyo@city.nogata.fukuoka.jp



社員(薬剤師)
なかむら ひかる
中村 光さん

インタビュー
かきはら ゆき
柿原 友紀さん
(4年生)